

教育プログラムにおける 図書館のサポート活動

国際基督教大学の場合

学術情報リテラシー教育担当者研修

国際基督教大学図書館 畠山珠美

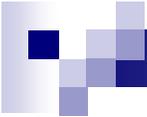
国際基督教大学 (ICU) の概況

- 学生数 3,068名
- 教員数 (専任) 152名
- 3学期制
- 図書館データ (2005年3月31日現在)
 - 蔵書数 643,361 冊
 - 入館者数 1,332 人/日
 - 年間貸出冊数 61.9 冊/人 (学生)
 - 専任職員 14名
 - ・派遣職員 1名
 - ・パートタイマー 12名/日
 - ・学生アルバイト 5名/日



本日の内容

1. ICUにおける英語教育プログラム (ELP)
2. ELPと図書館利用教育
3. 現在のプログラム内容
4. 図書館利用教育のポイント
5. 利用教育が図書館を活性化
6. 課題と今後の展望



ICUにおける 英語教育プログラム (ELP)

- 4月生の必修科目
 - 1年次のほとんどと2年次の一部を使って集中的に学習
- 目標
 - 英語を学ぶのではなく、英語は学ぶための「ツール」
 - 大学での学問に不可欠な考え方や「Critical Thinking」の習得

ELPと図書館利用教育

■ ELPのカリキュラム

1年次

- Academic Reading and Writing
- Reading and Content Analysis
- Communicative Strategies

2年次

- Sophomore English
- Theme Writing

図書館利用教育
を実施

図書館利用教育の変遷(1)

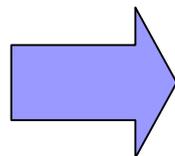
■ 1960年代からスタート

「論文の書き方」の授業で文献探索法を
図書館員が簡単に説明

■ 1970年代～1990年代前半

ELPの授業の1コマが図書館に任せられ、
図書館案内と文献探索法を指導

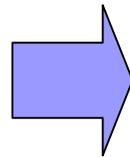
OPAC登場



コンピュータ操作から
文献探索指導まで必要

図書館利用教育の変遷(2)

教員に交渉



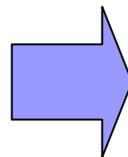
1コマ

2コマ

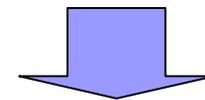
■ 1996年～2001年

- 春学期：図書館資料の知識とOPACの指導
- 秋学期：文献探索法の指導

多種多様な
電子情報の登場



教員から提案



2コマ

3コマ



現在のプログラム内容

■ 2002年～現在

- 1年次春学期
図書館資料の知識とOPACの指導
- 1年次秋学期
一般的文献探索法の指導
使用する情報源: 雑誌記事全文データベース
- 2年次
主題別文献探索法の指導
使用する情報源: 二次情報データベース



クラス編成(1)

■ 1年次

- 全学生を1クラス20名程度に分けて授業
- 図書館利用教育は1～2クラスで実施

■ 2年次

- 春・秋・冬学期に開講し、学生は1つの学期を選択して受講
- 図書館利用教育は1～3クラスで実施

クラス編成(2)

■ 講師

- 図書館員が1クラス2名で担当(主担当・副担当)
- 14名中12名が参加

■ 2005年度実施状況

- 1年生春学期 17回 584名
- 1年生秋学期 16回 598名
- 2年生 春:3回 秋:5回 冬:4回 594名

実施スケジュール (1年生春学期)

日		人数
4/18	2限	36
4/18	4限	40
4/19	1限	21
4/19	2限	44
4/20	1限	42
4/20	2限	41
4/20	4限	22
4/20	5限	42
4/22	4限	43

4/22	5限	42
4/25	1限	43
4/25	2限	21
4/26	2限	42
4/27	1限	21
4/27	5限	22
5/10	2限	41
5/17	2限	21
Total		584

実施スケジュール (1年生秋学期)

日		人数			
			9/20	1限	44
9/12	2限	41	9/20	2限	44
9/12	4限	21	9/20	5限	44
9/13	1限	42	9/21	2限	22
9/13	2限	38	9/27	1限	45
9/13	5限	42	9/27	2限	45
9/14	1限	42	9/27	5限	21
9/14	2限	23	9/30	1限	44
9/16	1限	40	Total		598

実施スケジュール (2年生)

日		人数
4/20	3限	54
4/25	3限	47
4/27	3限	14
9/12	3限	69
9/14	3限	69
9/21	3限	46
9/26	3限	69
9/28	3限	69

12/12	3限	45
12/14	3限	50
12/19	3限	33
12/21	3限	29
Total		594

図書館利用教育のポイント(1)

～ 実施方法 ～

自由参加型より**授業・ゼミとの連携**

- 自由参加型の問題点
 - いかに人を集めるか PR方法
 - 時間設定の問題
- 教員からの指導が最も効果的
- 受身ではなく売り込みが必要
- 教員から教員へと輪を広げる

図書館利用教育のポイント(2)

～ 実施内容 ～

本題に入る前に**ガイダンスの目的や有用性の説明が重要**

- なぜELPの授業の中で図書館ガイダンスを行うのか
 - 学術論文とは？
 - 参考文献の必要性
- なぜオンライン・データベースが必要なのか
 - 学術誌の存在とその必要性
 - オンライン・データベースの仕組み
 - サーチエンジンとオンライン・データベースの違い

プレゼンテーションのスライド例(1)

学術論文とは

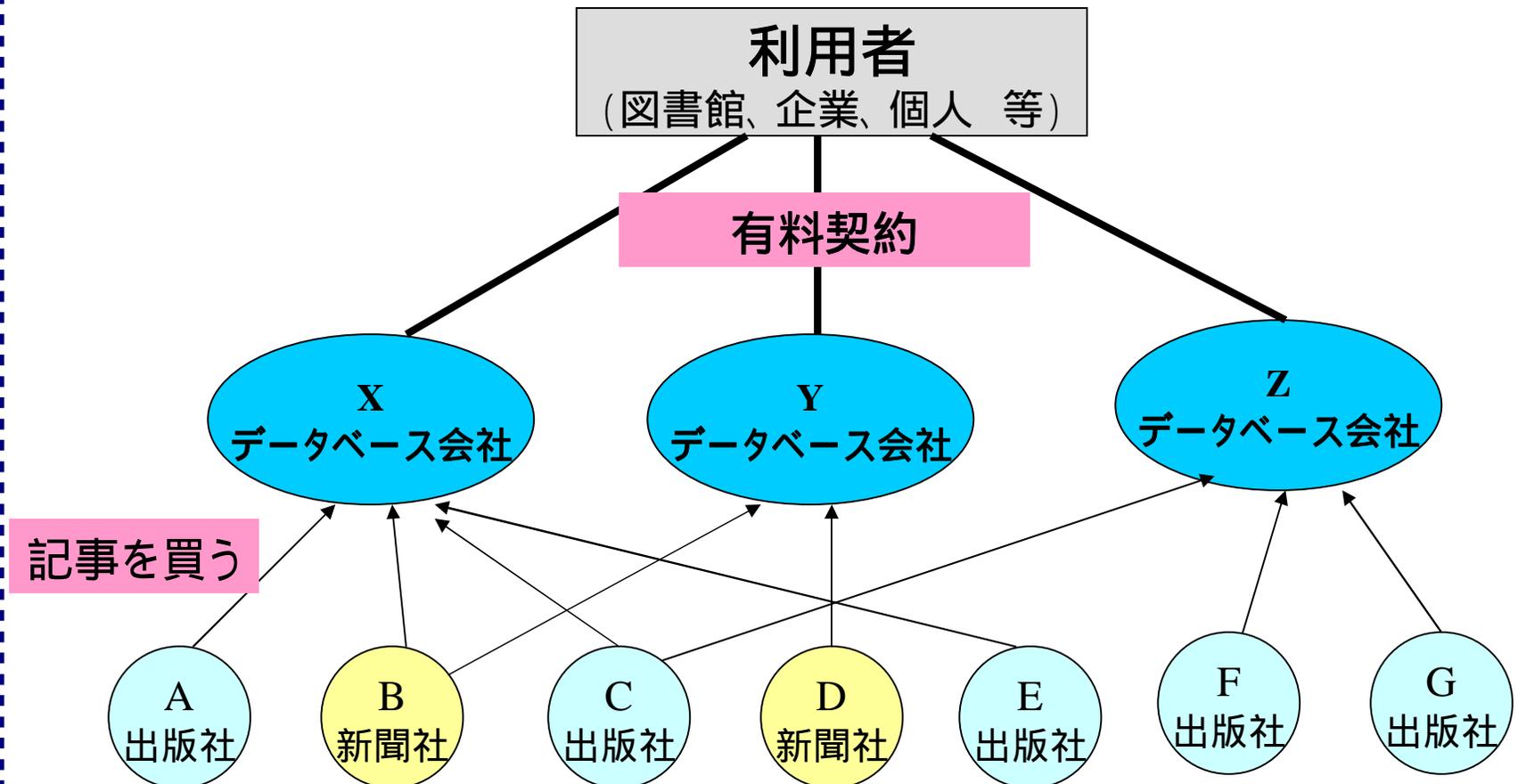
- 自分の考えだけでは ×
- 事実に対して**根拠**を示すことが必要

例: 地球温暖化の進行が異常気象をもたらしている。

- 地球温暖化とは？(定義 百科事典、各種辞典)
- 温暖化はどれくらい進んでいる？(統計データ)
- どんな異常気象が発生しているのか(新聞記事、雑誌記事)
- 地球温暖化と異常気象に関係はあるのか？
賛成論と反対論を示し、賛成論をなぜ支持できるかを示す
(先行研究 図書、研究論文)

プレゼンテーションのスライド例(2)

オンライン・データベースとは

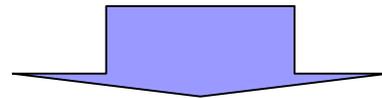


図書館利用教育のポイント(3)

～ 実施後 ～

ガイダンス + レファレンス = 図書館利用教育

- ガイダンスは「**きっかけ**」
 - 館内ツアーよりも演習形式
 - オンライン・データベースは一つに絞る
- 学生が本当に必要になった時(レポート作成時)の受け皿が必要



レファレンスサービス・
センター

+

デジタルレファレンス
サービス

レファレンスサービス・センター



学習拠点に隣接



数名の館員が常駐

チュートリアルスペース



デジタルレファレンス・サービス

Q&A フォーム Q&A Form

個人情報 Personal Information

▶ IDナンバー ID Number:

▶ 名前 Name:

▶ Email アドレスE-mail address (必ず入力してください。 Do not omit.):

▶ 属性 Status:
 教員 Faculty 大学院生 Graduate student 学部生 Undergraduate 職員 Staff その他 Others

ご意見・ご質問内容 Questions, Opinions

▶ ご意見・ご質問 Questions, Opinions:

利用教育が図書館を救う

- デジタル資料の急増 → 資料組織化の限界

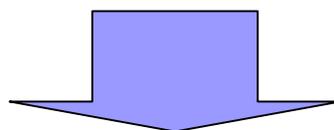
図書館側の变革 → 利用者側の变革

- 図書館資料の活性化
 - 学術誌の利用度 ↑
 - デジタル資料の知名度 ↑
- 館員のレベルアップ
 - 学生の動向を把握 → 選書能力・指導力 ↑
 - レファレンスの活性化

課題と今後の展望(1)

■ 指導内容の多様化

- 図書館内の資料から世界中の情報へ
- 情報検索能力から情報の評価・選択能力育成へ



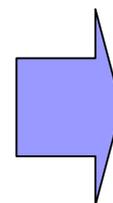
3回のカリキュラムの限界

◆指導時間の不足

◆細切れの体制 → 集中指導へ

課題と今後の展望(2)

- 図書館利用教育の評価
 - 利用教育効果の明確化
 - 大学側へアピール



初年度教育
参入へ

図書館

1. 印象づけ
2. サービス案内
3. 情報探索法指導
4. 情報整理法指導
5. 情報表現法指導